

大気質の予測手法の検証について

1 今回の予測手法による現行施設（200 t / 日）の予測結果

	寄与濃度(A)	現地調査結果(B)	寄与割合 (A / B)
二酸化硫黄 (ppm)	0 . 0 0 1 1 2	0 . 0 0 1	1 . 1
二酸化窒素 (ppm)	0 . 0 0 0 3 4	0 . 0 1 4	0 . 0 2 4
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0 . 0 0 0 3 7	0 . 0 2 1	0 . 0 1 8
塩化水素 (ppm)	0 . 0 0 0 6 2	0 . 0 0 0 1 6	3 . 9
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0 . 0 1 2 4	0 . 1 3	0 . 0 9 5

(注1) 寄与濃度は、現行施設の排出ガス諸元（設計値）を用いて、今回の予測手法（マスコンモデルを用いた手法）で予測した最大着地濃度地点における年平均寄与濃度です。

(注2) 現地調査結果については、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質は伴小学校測定局、その他の項目は現地調査結果の平均濃度です。

2 今回の予測手法と一般的予測手法による新施設（400 t / 日）の予測結果

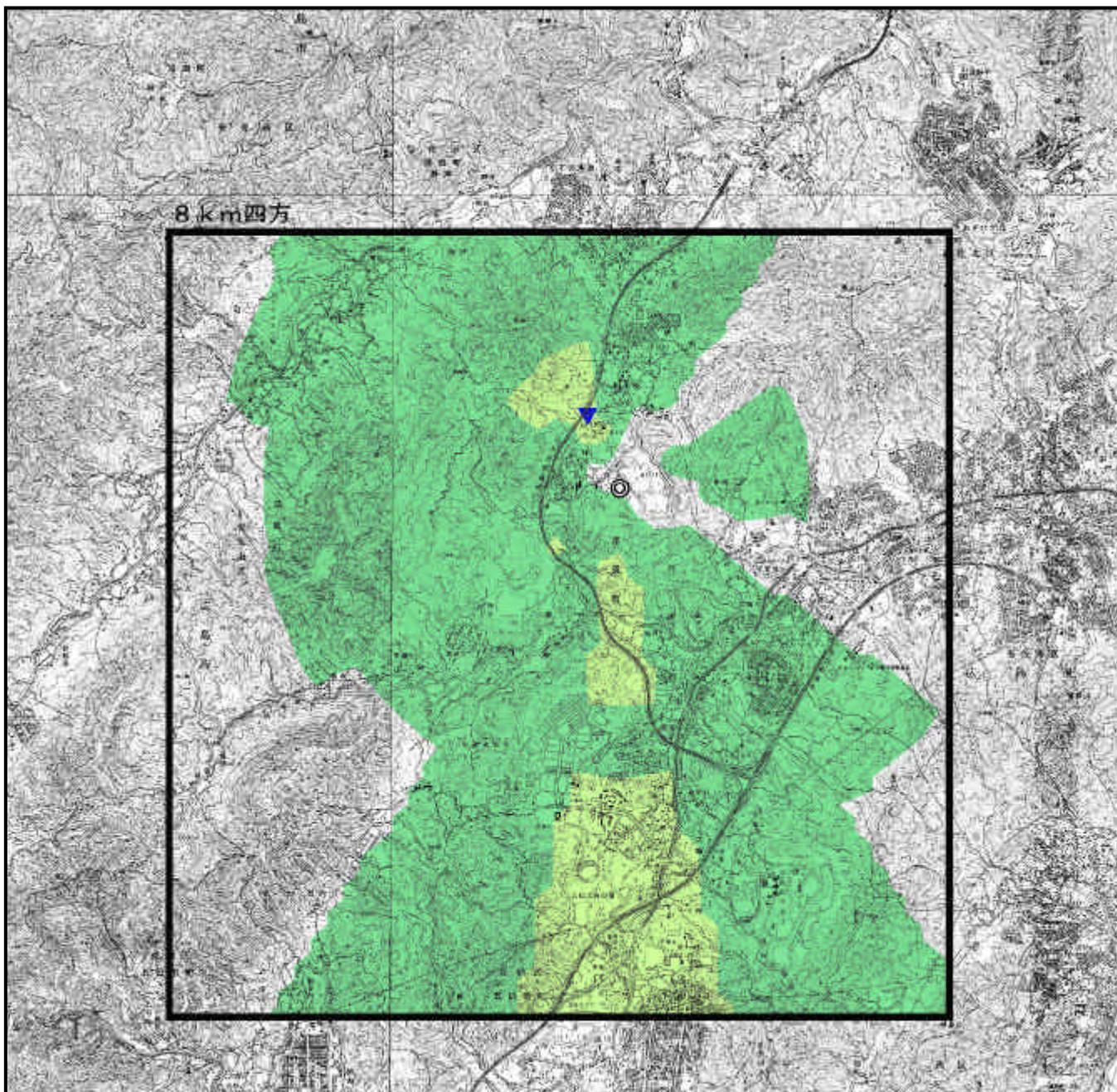
	今回の予測手法での寄与濃度 (A)	一般的予測手法での寄与濃度 (B)	比率 (A / B)
二酸化硫黄 (ppm)	0 . 0 0 0 3 3	0 . 0 0 0 0 5	6 . 6
二酸化窒素 (ppm)	0 . 0 0 0 6 1	0 . 0 0 0 0 8	7 . 6
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0 . 0 0 0 4 0	0 . 0 0 0 0 6	6 . 7
塩化水素 (ppm)	0 . 0 0 1 2	0 . 0 0 0 2	6 . 0
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0 . 0 0 2 0	0 . 0 0 0 3	6 . 7

(注1) 今回の予測手法は、マスコンモデルで風場を推定し、拡散式には移流パフ式を用いています。

(注2) 一般的予測手法は、地上 100mの風向・風速を使用し、拡散式にブルーム・パフ式を用いています。

別紙の年平均寄与濃度分布図は、新施設（400 t / 日）の排出ガス諸元を用いて、大気質の一般的予測手法で予測した年平均寄与濃度の分布図です。

これは、今回の予測手法で予測した、準備書の p.7.1.1-69 及び 70 に対応するものです。

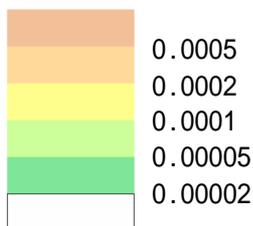


凡例

- : 新安佐南工場
- : 最大着地濃度地点
(0.00008ppm)
煙突から西へ0.3km、北へ0.8km 地点

□ : 予測範囲 (約8km 四方)

二酸化窒素 年平均寄与濃度 (ppm)

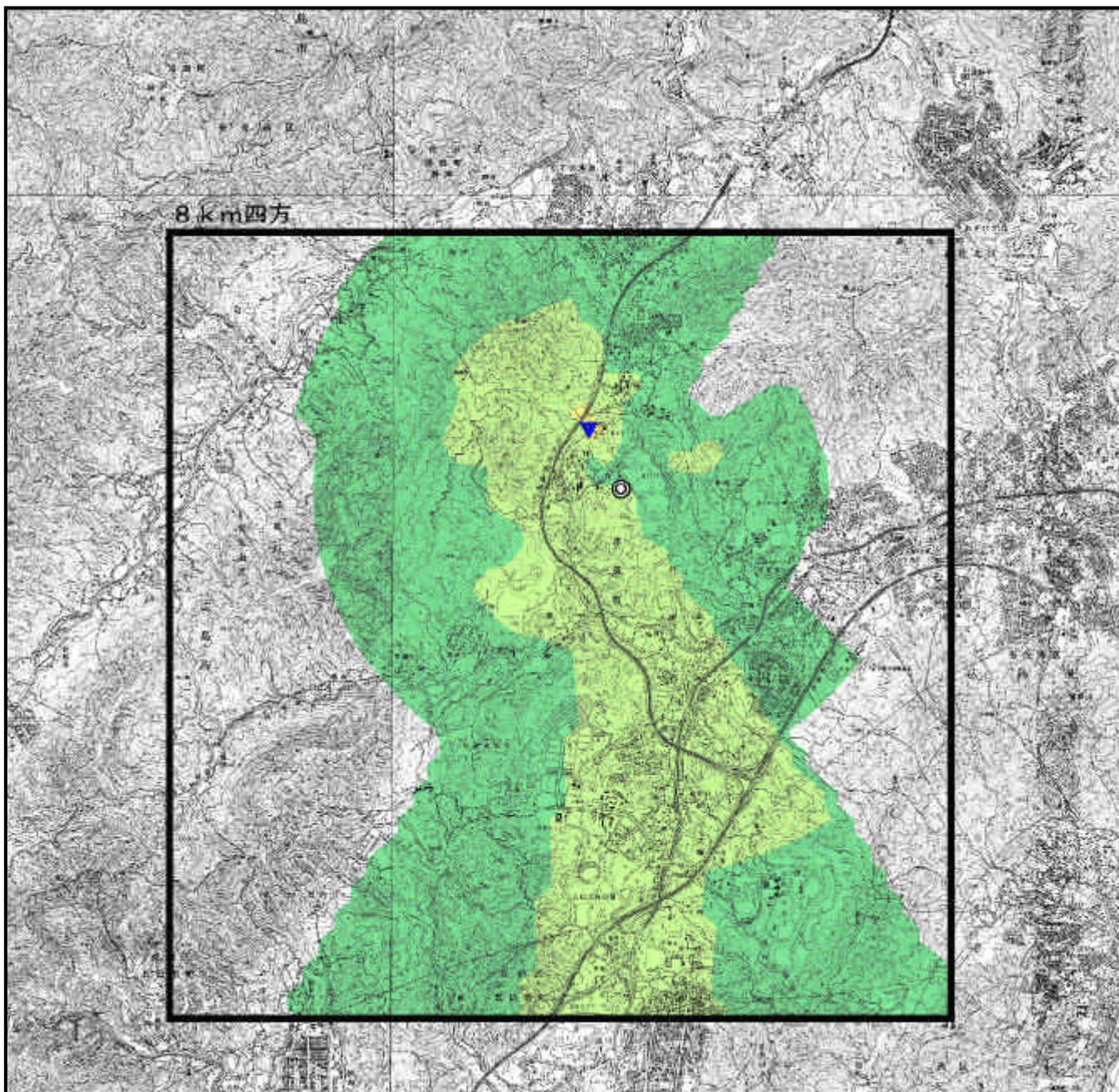


1:65,000



ブルーム・パフ式による年平均寄与濃度分布図 (施設の稼働・二酸化窒素)

準備書 P.7.1.1-69 の図 7.1.1-14(2)に対応

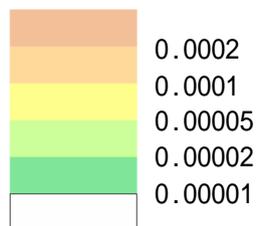


凡例

- : 新安佐南工場
- : 最大着地濃度地点
($0.00006\text{mg}/\text{m}^3$)
煙突から西へ0.3km、北へ0.6km 地点

□ : 予測範囲 (約8km 四方)

浮遊粒子状物質 年平均寄与濃度 (mg/m^3)



1:65,000



ブルーム・パフ式による年平均寄与濃度分布図 (施設の稼働・浮遊粒子状物質)

準備書 P.7.1.1-70 の図 7.1.1-14(3)に対応